第３回（仮称）新大田区観光振興プラン策定委員会 議事要旨

日　時：平成 30（2018）年 10 月 12 日（金）15：00～17：00
場　所：大田区役所　９階 902 会議室
出席者：大下委員長、淺野委員、石坂委員、伊藤委員、河野委員、佐々木委員
　　杉村委員、菅委員（代理出席：鈴木氏）、中條委員、
　　平井委員（代理出席：時田氏）、平江委員
　　※ 五十音順（委員長除く）

１．開会

事務局から、開会が案内された。

２．前回の討議内容について

資料１「第１回（仮称）新大田区観光振興プラン策定委員会　議事要旨」などに基づき、前回の討議内容について、事務局から確認が行われた。

３．現行プランの振り返りについて

資料２「大田区観光振興プラン推進のための前期・後期重点計画の実績・成果及び総括（振り返り）等」に基づき、現行プランの振り返りについて、事務局から説明が行われた。

（委員長）
・ 10 年前の現行の観光振興プランを策定するときには、何から取り組んだら良いかわからない時代だった。あれから 10 年経過したが、後期重点計画で示されている５事業は今後も継承されていくだろう。新大田区観光振興プランにおいてはこの５事業を基本戦略の柱として明記しても良いだろう。

（委員）
・ 現行の観光振興プランには７つの基本戦略が記載されている。観光協会としては「基本戦略７　まちづくりと連携した観光の人材育成と組織化を図る」という戦略に関連する事業に取り組んできた。ガイドの育成講座や外国人向けのガイドボランティアの育成を行ってきた。人と人がつながって大田の魅力をアピールすることを努力してきたと思う。

４．事業者ヒアリング・庁内ヒアリング等について

資料３「事業者ヒアリング・庁内アンケート・ヒアリングの結果概要」に基づき、事務局から説明が行われた。

（委員長）
・ 観光庁は「訪日外国人旅行者の安全確保のための手引き～地域防災計画等に訪日外国人旅行者への対応を記載するための指針～」を策定し、地域防災計画において帰宅困難者と同様に訪日外国人旅行者を扱うことを自治体に依頼したが、観光危機管理という形で依頼しなかった。大田区の場合、羽田空港の利用者が災害時

に帰宅困難となり、自力で歩いて帰る可能性があるため、地域防災とは少し違った形での対応が必要かと思う。
・ 新しい観光振興プランはヒアリング結果を踏まえて策定する形になる。ヒアリング結果の最終版は関連資料として次回委員会で報告されることになるため、その時点で最終確認をお願いしたい。

５．新プランの内容（目標、基本原則、基本戦略等）等について

資料４「（仮称）新大田区観光振興プランの構成について」、資料５「大田区における想定事業等について（第３回策定委員会用：区分等変更版）」に基づき、新プランの内容等について、委員長および事務局から説明が行われた。

（委員）
・ 観光エリアマネジメントについてイメージはわかるが、具体的な定義がわからない。通常、まちづくりのエリアマネジメントはまちの関係者がまちをマネジメントすることを意味する。観光エリアマネジメントというのは、地区の関係者が観光事業を行うという意味か。それとも観光協会等が事業を行うが、対象が地区単位になることを意味するのか。

（委員長）
・ 通常のエリアマネジメントのように事業性を追求しないが、観光協会が地区の関係者と一緒になって観光まちづくりを行っていくことに近い。

（委員）
・ 観光事業を行う地区の担い手も育成していくことか。

（委員長）
・ 地区の担い手を育成しながら取り組むイメージである。
・ 地区の中で観光振興に無関心の方が多くいる中、観光事業の担い手を少しずつ広げていくということであれば、大田観光協会が推進しきたこととも大きく乖離していないため、観光エリアマネジメントを提案した。

（委員）
・ 資料２に記載されている「⑤観光振興を推進する体制・環境づくり」に関連してくるか。

（委員長）
・ 関連してくる。

（委員）
・ 担い手を新たに育成していくことか。

（委員長）
・ 担い手を新たに育成していくことである。
・ 東京都は「PRIME 観光都市・東京 ～東京都観光産業振興実行プラン 2018～」にお

いて「東京の様々な主体の連携強化」を掲げている。しかし、主体の多様性が十分とは言えないと考えており、次年度の実行プランにおいて関連内容の補強を提案している。提案の一つはこども教育や観光教育を含めて取り組むことである。

（委員）
・ 観光エリアマネジメントは大変な話であるが良いと思う。

（委員）
・ 資料５について、想定事業の区分を変更したことでわかりやすくなった。資料５に記載されている事業区分および概要は新しい観光振興プランに掲載しないという理解でよろしいか。

（委員長）
・ 具体的な事業名は観光振興プランに掲載しない。事業に関する考え方や、従来の取組を示す写真を掲載することになるだろう。

（委員）
・ ターゲットを明確に書いても良いのではないか。

（委員長）
・ 概要には想定したメインターゲットに言及しても良いかもしれない。

（委員）
・ 2020 年３月に羽田空港の発着枠が拡大すれば、訪日外国人旅行者の構成も変わる可能性がある。2020 年前後で環境が大きく変わるため、現時点想定したターゲットに対応した施策という形で整理したほうが良いだろう。

（委員長）
・ 委員会資料は新しい観光振興プランの補足資料として別冊で整理されるだろう。

（委員）
・ 大田区の場合、総花的な観光コンテンツがあり、それぞれの取り組みにある程度芽が出ていると思う。それぞれ一所懸命やっているが、４番バッターが出ていない。「おおた」で見せているからヒットしていないのではないか、という気づきがあった。「～@OTA」でコンテンツを明記したり、個別の地域を見せたりすることで、「おおた」というぼんやりした枠組みの中に閉じ込めないようにするというのは良いと思う。
・ みんなが「選択と集中」を行って観光振興策に取り組んでみたいのではないかと思う。例えば蒲田の飲食店をテーマに３年間取り組んでみる。本当にインバウンド客やトランジット客が来るかどうかに賭けてみる。飲食店をテーマに取り組むことまで言及する必要がないが、大胆な観光振興策を講じてみるかどうかについて明確にしたほうが良いと思う。

・ 羽田空港のトランジット客はこれから増えると思う。しかし、羽田空港跡地の第

１ゾーン、第２ゾーンが整備され、宿泊施設や飲食施設ができることにともなって、トランジット客は天空橋より区内内側に行かなくなるだろう。やはり大田区のまちなかに来てもらうためのコンテンツを「選択と集中」で作っていったほうが良いだろう。

（委員長）
・ 観光振興プランではなく、重点計画の中で取り組んでみるのは良いと思う。例えば 2020 年に向けて、2019 年からの２年間で特定の地区（例えば蒲田）で重点的に取り組んでいく。観光振興プランに記載してしまうと、他の地域から「なぜ蒲田だけなんだ」と言われかねない。

（委員）
・ そうなると思う。しかし、大田の観光コンテンツを世界に響かせるには「選択と集中」を行うことを掲げる必要がある。今は大田区役所が旗振りをするチャンスだと思う。

（委員長）
・ 観光協会であれば「選択と集中」ができるだろう。

（委員）
・ 観光協会としては選択と集中を行ってきたと思う。例えば大田区がものづくりのまちであるため、オープンファクトリーを８回開催している。
・ 水と緑がある。多摩川があり、大森ふるさとの浜辺公園がある。スポーツ祭東京 2013 のカヌー競技が大田区で行われたことを契機に、カヌー教室等のイベントを開催している。昨日、ＳＵＰ（スタンドアップパドルボード）で多摩川を下るイベントが開催され、ゴールが大森ふるさとの浜辺公園であった。そのような動きが出ている。
・ 蒲田に松竹キネマ撮影所跡がある。蒲田映画祭のトークショーへの登壇者として往年の女優（岩下志麻氏、有馬稲子氏や香川京子氏など）に依頼した際、蒲田で開催するということで快諾いただいたことが多い。蒲田のブランド力を感じた。

（委員）
・ どれを尖らせるかを検討する時期だと思う。

（委員長）
・ エリアまたはテーマを「選択と集中」を行うことについて、観光振興プランにおいて言及しても良いと思う。

（委員）
・ 現在の構成案は過去の整理を行っているような印象である。新しい要素として防災が加わっているが、次に何が出てくるかイメージしにくい。ホームランを狙うために取り組むべき事項を考えていくことに言及しても良いのではないか。総花的に列挙されているとおもしろくない。

（委員長）
・ それが大事である。

（委員）
・ ポテンシャルを活かし切れていない感じである。

（委員長）
・ それについて最後の最後まで議論したい。なお、柔軟性のある観光振興プランを策定した方が良い。蒲田の一点突破で取り組んだ方が良いのであれば、観光振興プランの策定とは別に議論していく。

（委員）
・ 「選択と集中」については、いままでの議論のとおりである。
・ 庁内の連携もしっかり行っていただきたい。資料５に示されている想定事業等には、産業経済部所管の事業が漏れているものがある。庁内部局間の調整を検討していただきたい。

（委員長）
・ 庁内連携は必要である。
・ 防災危機管理をいうと、庁内連携を図らざるを得ない。通常、観光と言うと、縦割りが出てしまう。例えば、危機管理を想定したうえで庁内連携のようなことを行っても良いだろう。それをきっかけに庁内連携を図ることができれば良い。
・ 庁内連携について観光振興プランに記載したいと思う。

（委員）
・ 羽田空港の発着枠が拡大すれば訪日外国人旅行者が増加するだろう。羽田空港の跡地には多目的広場や産業交流施設が整備される予定である。羽田のまちをＰＲしていきたい。また、東京空港事務所とも連携し、羽田空港の利用者に羽田のまちに来ていただきたい。
・ 蒲田には日本工科大学がある。同大学の学生がすばらしいまちをデザインしている。
・ 多摩川も利用しながら、訪れると地域のおいしい食が堪能できる状態を作り出せると、空港利用者は自ずと大田区のまちなかを訪れるのではないか。

（委員）
・ いろいろな地区の方が自分の区をＰＲしたいことになっている。
・ 2020 年のオリンピック・パラリンピックがある中、2020 年に向けて何が一番訴求力があるかを検討し、ある程度集中的に取り組んだ方が良いのではないか。

（委員）
・ 地方との広域連携を密に行い、大田区を日本の窓口や玄関口にすることを考えても良いのではないか。

（委員）
・ もう少し対象エリアを絞り込んだ方が取り組みやすい。例えばインバウンドを考えると、対象地域が羽田地区か蒲田地区になるだろう。

（委員長）
・ 観光振興プランに軸の１つとして記載するのは難しい。蒲田振興プランではないかと言われかねない。エリアの絞込ができるように仕掛けを観光振興プランに入れておくことが大事である。2020 年までは世界に訴求力のあるものに重点的に取り組むことを書けば良い。

（委員）
・ ４番バッターの芽がたくさんあるという前提に立てば、観光振興プランに取組の順位付けを行い、順番に取り組んで行くことについてコンセンサスが得られると良い。

（委員長）
・ 順位付けの理由を説明するのは難しい。順位付けについて明記しない方が良い。

（委員）
・ それができないのであれば大田区の限界だと思う。優先順位を決めるかどうかについて検討した方が良いのではないか。

（委員）
・ 観光振興プランに明記する必要はないと思う。４番バッターを育成するために選択と集中を行うことが書かれていれば良いのではないか。

（委員）
・ 担い手がはっきりしない形で観光振興プランを策定する場合、バトンを渡す手段がないとバトンを受ける側は動きにくい。何かのメッセージを残した方が良い。

（委員長）
・ 観光振興プランの策定ではあるが、継続的にフォローする体制を作る、年１回程度取組の状況を確認する。同様な方法を採用している自治体がある。
・ 行政計画を策定するものではなく、ホームページに公表する必要はないため、実質的な議論ができる。観光推進連絡協議会で議論できると良い。

（委員）
・ 年に１回集まって議論するのが良いと思う。

（委員長）
・ 「両国観光まちづくりグランドデザイン」の策定に関わった。
同グランドデザインの地域展開に向けてエリア懇談会と地域連絡会が設置されている。地域連絡会において進捗状況の確認等が行われている。
・ 「Ｖ．事業推進への取組み」にチェック機構の設置を記載すれば良い。

（委員）
・ 総花的になると良くない。この委員会で行った議論が受け継がれる形にしたほうが良い。

（委員長）
・ 10 年前にはこんなに外国人旅行者が訪日することをだれも予測できなかった。だれも予想しなかったことを想定することは難しい。
・ これまでの経験を踏まえると、観光振興プランに書きすぎるとできることが限られてしまう。大きな枠組みの中でキーワードを観光振興プランに記載しておくと良い。次回重点計画の中で東京オリンピック・パラリンピックまでに蒲田を重点的にＰＲしていくことを記載する。

（委員）
・ 重点計画は行政計画になる。重点計画を策定する際、年に１回程度懇談会を開催し、みんなが意見交換しながら取り組んだ方が良いだろう。

（委員長）
・ 「Ｖ．（１）行動計画策定に基づく選択・集中による着実な取組みの展開」において、年１回のフォローアップ体制等を記載すれば良い。
フォローアップ体制の中で行政計画を策定していけば良いのではないか。

（委員）
・ 大田区では、外部の委員が参加するフォローアップを行った例はほとんどない。

（委員長）
・ 今年度の取り組みを評価し、次年度の改訂につなげるための懇談会という形であればできるだろう。例えば地域循環バスの事業評価はこのような形式を取っている。事業評価をやらないが、類似する形でやればできる。
・ 次回にはある程度観光振興プランの文案を提示することになる。観光振興プランの構成は資料４の提案でいかがか。

（委員）
・ 異議なし。

（委員長）
・ 「Ⅲ．目標とする大田区観光の姿～目標と理念」について、ある程度形を変えたうえで「生活観光都市」という言葉を継承することにしたい。
・ 「Ⅳ．大田区観光の基本戦略～６つの大田区観光力の推進」について現時点の案で文案を作成していく。「（１）世界とつながる『国際都市おおた』の特性を活かした来訪者誘致活動の推進」について、場合によってはもう少し包含する形でタイトルを変更する可能性がある。これまで推進してきた重点計画も変わった部分があるため、次期の行動計画も変更しても良いだろう。これについては委員会に諮りながら作っていきたい。

・ 「Ｖ．（１）行動計画策定に基づく選択・集中による着実な取組みの展開」について、フォローアップ体制の構築や庁内連携の強化等の貴重な意見をいただいている。東京オリンピック・パラリンピックは大田区の魅力を最大限アピールできるチャンスである。エリアかテーマかを明言しない形にするだろうが、東京オリンピック・パラリンピックに向けてキラーコンテンツを生み出せるように「選択と集中」を行うことを記載したい。
・ 次回の委員会では（仮称）新大田区観光振興プランの文案を中心に議論したい。
・ 先日、北区の観光ＰＲ大使を作る会合に出た。事例の１つとして大田区の国際都市おおた大使（来～る大田区大使）が紹介された。また、赤羽が最近話題になっている。第二の吉祥寺と呼ばれているようである。その背景には発信力のある人が出店していることがある。インフルエンサーに観光ＰＲ大使になってもらい、関係人口を作る方向にまとまりつつある。
・ エリア、テーマとは別に、手法に関する議論がある。そういう議論を次回以降にできればと思う。

６．今後の会議日程

次回委員会は 11 月 19 日（月）に同じ会場で開催することについて、事務局から案内が行われた。

７．閉会

事務局から閉会が宣言された。

以上